

2型糖尿病腎症における血清蛋白の早期糸球体障害マーカーとしての有用性

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2012-10-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 齋藤, 憲祐 メールアドレス: 所属:
URL	https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2001455

順天堂大学 博士(医学)

氏名 齋藤 憲祐

論文題名 2型糖尿病腎症における血清蛋白の早期糸球体障害マーカーとしての有用性
(Usefulness of serum proteins as early markers of glomerular injury in patients with type 2 diabetic nephropathy)

論文内容の要旨

目的：新しい腎機能マーカー（シスタチン C・ β -トレースプロテイン：BTP）と従来から使用されている腎機能マーカー（クレアチニン・尿素窒素：UN・尿酸：UA・アルブミン：ALB・レチノール結合蛋白；RBP， トランスサイレチン：TTR）を， 2型糖尿病腎症患者血清において網羅的に測定し， いずれの血清蛋白が， 早期糸球体障害マーカーになりうるのか， また病期分類に使用可能なのかについて検討した。

対象と方法：2型糖尿病腎症患者 82 検体（男性 49 例， 女性 33 例， 平均年齢 60 歳， 病期 1 22 検体， 病期 2 7 検体， 病期 3a 19 検体， 病期 3b 14 検体， 病期 4 20 検体）を用いた。血清 ALB・TTR・RBP・BTP・シスタチン C の測定には， 全自動免疫化学分析装置ベーリングネフェロメーターを用いた。厚生労働省作成の糖尿病腎症の病期分類別に比較検討した。

結果：糖尿病腎症の病期 1 と病期 2 で有意な差を認める項目はなかった。病期 2 と病期 3a で有意差を認めた項目は， RBP， シスタチン C の 2 項目であった。糖尿病腎症の各病期を識別する各種血清蛋白の能力を， ROC 分析の AUC（曲線下面積）により比較し評価したところ， 糖尿病腎症病期 2 と 3a を識別する能力は， シスタチン C が最も高いことが示された。また， 糖尿病腎症病期 3a と病期 3b および病期 3b と病期 4 を識別する能力は， クレアチニンが高いことが示された。

結論：血清シスタチン C は， 糖尿病腎症病期 2 と病期 3a において識別能力が高いことから， 早期腎糸球体障害のマーカーとして使用可能であることが示された。血清クレアチニンは， 糖尿病腎症病期 3a と病期 3b および病期 3b と病期 4 において識別能力が高いことから， 顕性腎症および腎不全を判断するためのマーカーとして使用可能であることが検証された。